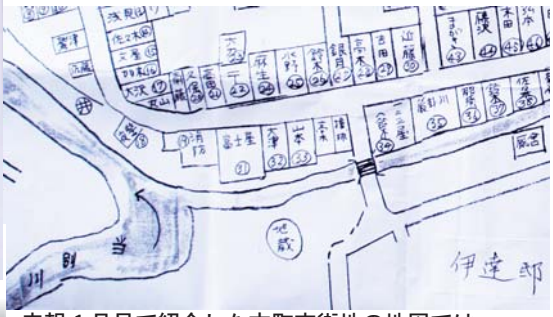
当別町 140 年特別企画

第９話 お祭、行事の今昔物語

延命地蔵のお祭
昔、当別神社に通じる伊達橋のたもとに地蔵がありました。当別川に水難で命を落とした人々の供養にと有志により建立され、毎年７月 15 日には盛大なお祭が催されました。
　写真は昭和 30 年代と思われます。背景右奥に伊達橋の欄干が見えます
（写真：写真でつづる 120 年）



広報１月号で紹介した本町市街地の地図では昭和 10 年当時すでに地蔵がありました。

延命地蔵祭が、☀さん・産・フェスタに？
楽しみを求めて住民はイベントを創出した

①伊達橋の地蔵

　上の写真は町内元町の伊達橋から阿蘇公園入り口（当別神社例大祭で露店が並ぶあたり）でのお祭の写真です。豊年の祭うちわが見えますが、収穫祭ではなく、お地蔵様のお祭の様子です。

　このあたりは 35 年ほど前まではパンケチュベシナイ川と当別川が合流する場所にあたり、水死事故が多く、その供養のため、有志によってお地蔵様が建立されました。お地蔵様は付近の住民が寄付を募るなどして管理を行い、そのお参りは毎年７月 15 日でした。しかし、水難の関係者によるお参りから、映画や芝居の上演、子ども相撲大会などを伴うようになり、次第に地元住民の楽しみとするお祭に成長しました。

②まつりは受け継がれ

　昭和 31 年に当別と太美にそれぞれあった商工会が統一されたのを機に、「商工まつり」がはじめられます。その日程は地域住民が集まる「地蔵祭」に合わせて開催されたことから、一層賑やかなお祭となりました。しかし、当別川およびパンケチュベシナイ川の河川改修が進むと、護岸工事による地蔵堂の撤去が問題となりました。河川を管理する土木現業所はお祓（はら）いの上、廃棄も含めて検討していた昭和 48 年頃、お地蔵様を粗末にできないと、町内の蕨岱に住む故高橋アヤメさんが引き取る事になり、蕨岱 2319 番地に地蔵堂を建立して移転されました。

　こうしてお地蔵様は伊達橋の袂から去りましたが、同時に開催されていた「商工まつり」はその後も「産業まつり」として更に発展し、あそ公園や本通りで実施されました。

　現在、６月の夏至の日にスウェーデンヒルズで行われている「夏至祭」も実は昭和 59 年から３年間は「産業まつり」の一環として阿蘇公園で行われました。これは同年６月に当時の町長と議長がスウェーデンを訪問したのを機に、北欧の文化を知ろうと町により企画されたものでした。

　このように住民の信仰によって始まったお祭は、「商工まつり」、「産業まつり」、「サンキューフェスティバル」、そして現在は、「☀さん・産・フェスタ」へと名称と内容を変えて引き継がれていったのです。

蕨岱に残る現在の延命地蔵（右）

地蔵堂の前で開かれた「友愛セール」（左）では、商工まつりと合わせてフリーマーケットも行われ、地蔵堂の前は人で賑わいました。（昭和 47 年７月 15 日）

第１回夏至祭ではマイストングの周りを浴衣姿で当別音頭を踊っていました。（昭和 59 年７月 14 日）

③ミス当別コンテスト

昭和40年8月7日、ミス当別発表会が行われました。

広報とうべつの昭和41年1月号では「**当別専門店会が春以来の冷害の暗いムードを吹き飛ばし、活気のある街にと企画、昭和40年8月7日に超満員の体育館（旧公民館）で開催**」とあります。

詳細な記録は残っていませんが、当時のコンテストは審査員による審査ではなく、主催者である当別専門店会が加盟するお店で買い物をした際に投票券を配布し、その投票の多寡によって優勝を決めていたそうです。本人も知らないうちに知人が推薦しての出場も多かったといい、縁故者の入選のために投票券を得ようと、町内での消費も進んだといわれます。

このような投票によるコンテストにより「ミス料飲店」や札沼線を利用する女性を対象とした「ミス札沼線」などさまざまなミスが存在しました。

終戦間もなく欧米の文化が流入し、「ミス日本コンテスト」が昭和25年に始まったのでしたが、その後、ミスの北海道大会に当別出身の女性が選ばれるとその女性を一目見ようと、多くの男性が集まるなど、大きな話題となりました。地方でもコンテストがもてはやされたのは、まだ物が少ない時代に、住民は一時の華やかさを求め、戦後の自由な時代を実感していたのかも知れません。

インタビュー

当時ミス入賞の野口和子さん
（北栄町在住：当時18歳）

知り合いの勧めで、いつの間にか出場という感じで、他の皆さんもそのようでした。それでも入賞したことに母親は喜んでくれましたし、人気歌手の当別公演の時は、いつも最前列で花束贈呈役をお願いされる役得もありました。

当時は娘さんも多くて、ファッションショーまであって、着物や美容室が人気でしたよ。

■参考文献
当別町史（1972年）
写真でつづる120年（1990年）
■情報課広報広聴係
☎23－3069

ミス当別コンテストの様子

（上）ミス当別とミス料飲店の集合
（昭和34年10月24日）

（左）15名ほどのミスが着物やドレスを着飾って登場し、完成間もない旧公民館は超満員でした。
（昭和40年8月7日）
ビール会社の後援などが伺え、社会全体でコンテストがもてはやされていたようです。
（写真：町広報資料）

当別町140年特別企画として本町の歴史を特集してきました。

1 本町市街地の今昔物語（1月号）
2 消防の今昔物語　（2月号）
3 太美市街の今昔物語（3月号）
4 川と治水の今昔物語（4月号）
5 青山の今昔物語　（5月号）
6 亜麻産業の今昔物語（6月号）
7 米づくりの今昔物語（7月号）
8 戦時当別の今昔物語（8月号）
9 お祭、行事の今昔物語（9月号）
以上がバックナンバーです。

今後、小説「石狩川」について、教育について、道路の発達についてなど12話までの連載を予定しております。**写真や資料等お持ちの方は、広報広聴係（☎23－3069）までご一報下さい。**